

発 行

福井県大野市天神町1番1号

大 野 市 役 所

電 話 (代) 6-1111

郵 便 番 号 9 1 2

印刷 松浦印刷所



9月の人口の動き

出生	男 24	女 22	計 46
死亡	〃 11	〃 17	〃 28
転入	〃 40	〃 46	〃 86
転出	〃 39	〃 31	〃 70
世帯数	10,263 (前月±0)		
人 口	42,645 (前月+34)		
男	20,549	女	22,096



文化財を大切に

太鼓と笛の音に合わせて9尺(2.7m)の棒を上下に振り、勇ましく踊るのは尾永見に伝わる「三社の雨乞い踊り」です。この踊りは、平安時代に農民の間に自然発生したものと考えられ、尾永見・上

大門・下大門の三社の祭神であった弁財天に雨ごいすれば、たちどころに雨が降るといふ言い伝えがあります。江戸時代には干ばつでひと夏に3回「雨乞い踊り」をすると、その年の税は減ぜられるとい

うことも実際にありました。

昭和42年5月、市文化財に指定され、今は尾永見区の青年会(会長北川正雄さん)によって立派に受け継がれています。

大野市は福井県の民俗芸能の宝庫といわれ、このような歌や踊りが数多くあります。これらはみんな祖先の血と汗によって生まれ、今日に受け継がれた尊いもので、私たちが大切に保存しなければならない文化財です。

生活に潤い求めて

がんばってます

市内には、生活に潤いを求めていろいろな文化活動をしているグループがあります。また、個人でもいそしんでいる方が多いでしょう。11月は文化の月ですから、これにちなんで2つのグループと1個人を訪ね、活発な活動ぶりを拝見してきましたので紹介しましょう。



毎晩練習に励んでいるニューアンサンプルのみなさん

女性 の参加がほしい 目標は市民バンドに

ニュー アンサンプル

ました。

「来た者から自分の楽器の手入れをして、各自で力いっぱい吹いたり奏でたりしているのでやかしいでしょう。でもこれが大切な基礎練習です」高校生の斉藤征幸君(西山)はこう言つて、顔を真赤にしながらサックスを吹き始めました

また、同じく高校生の高橋雅博君(下据)は「楽器の好きな者の集まりなので出席率もよいし、週2回の練習は楽しい

10月下旬には毎晩のように上庄公民館から楽器の音が流れてきました。

これは勤労青年や高校生でつくっている「ニューアンサンプル」の文化祭を目指しての練習会でした。

会場に入るとひと際大きな音がトロンボーンでその外トランペット・サクソドラム・ピアノなどの音が混ざっての大音響が室内に満ちてい

です。でも、もっと良いバンドに成長するには、女性の会員がいなければだめだと思います」と語っていました。

スマイル

「まつたけ」

以後「みるだけ」と改称する
——××辞典

「オリーブの首飾り」「ブリーズミスターポストマン」などの演奏が始まると今までの音響とは打って変わって、美し

いハーモニーが室内に流れ、日ごろの練習の成果がありありと伺われました。

リーダーの石黒元英さん(20歳・稲郷)は「ニューアンサンプルが出来てことしで4年目、近い将来に市民バンドにするのが目標です。それには上庄地区の人ばかりでなく、また青年だけではなく、音楽の好きな人ならどなたでも参加していただき、40人ぐらいのフルバンドにしたいです」と、着実な歩みの中で意欲をたぎらせていました。

四季

「演劇は一人欠けても出来ない」

練習で仲間づくりと表現の追求

「演劇の良さは、発表が終わったときの「やった、という満足感で、苦労しながら高い山に登り、たな引く雲海の中から浮び出る朝日に思わず歓声を発するような気持です。ですから、みんなでまたやってみたくなる、演劇にはこんな魔力があります」と富田青年グループ「四季」の会長常見悦郎さん(26歳)は、手ずれの目立つ脚本を手にしながらかう話していました。

今「四季」の会員が練習に励んでいる

のは野崎氏治原作の「鯉濃汁(こいこく)」で、文化祭と農業祭での発表を目指しています。

すでに農家のセッが出来ました。また、今では貴重な民具になってしまった自在カギ・馬おけ・押し切り・みのなどの小道具も会員みんなで捜し求めてきました。

演劇担当の松田勉さん(27歳)は「9月上旬から準備にかかりましたが、一人欠けても練習が出来ず、演劇ほどチー



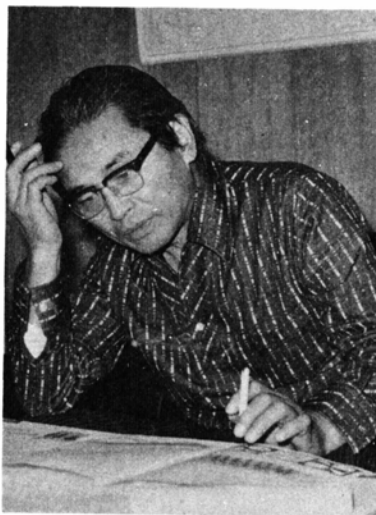
「鯉濃汁」の立ち合いをする四季の会員

メモワークを必要とするものがないことを痛感しています。「鯉濃汁」では人間関係の難しさ、大切さを観衆に解していただくため、毎日研究に励んでいます」と大張り切りでした。

明るく美しい「四季の歌」のような心の青年になることを誓い合い、これをグループ名にした若人たちは、今演劇による「表現」の追求にまい進しています。

ますので、いかに新鮮味を加えていくかが大きな課題になってきました。この解決には、市民のみなさんが「見る参加」から「出品・出場する参加」へと前進していくことが大切で、1年間の文化活動の総決算としての文化祭になればすばらしいと思います。このため、これからの文化祭の展示は、絵画・書道・工芸などの部門をはっきり設けること、舞台は演ずる者と観衆とが一体になるような企画を工夫することが必要なのではないでしょうか」と語る山奥さん……。

文化祭にける抱負は大きく、しかも堅実なところをみせています。



プログラムを点検する山奥巖さん

実行委事務局

魅力ある文化祭

「見る、参加から」手がける、参加へ

文化祭の運営がうまくいくかどうかは実行委員会の計画の良し悪しで決まります。

このかなめを握っているのが事務局担当者です。

山奥巖さん(56歳、日吉町)は一昨年から3年連続この大役にあり、第9回大野市総合文化祭を目前にして、プログラムの細部の点検や調整に当たっていました。

山奥さんの文化活動のレパートリーは広く、演劇・俳句・川柳また郷土史の研究などいろいろな分野で活躍されています

「私の文化活動は山奥の店屋みたいなもので、なんでもがあるが上等なものは1つも無い」と謙遜していますが、舞台装飾では専門的な知識をもち、郷土史研究では「野仏の研究」などで特異な存在です。

市の総合文化祭には初回から企画に参加している数少ない委員の1人で、「大野市の文化祭は期間と会場を集中して行

うのが特徴で、他市にはみられないよい方法だと思います。でも9回にもなりますと、展示・舞台ともマンネリ化してき



③ 善導寺

道しるべの仏様

寺町通りに面した善導寺墓地に小さなお堂があり、その中に縦60センチ、横35センチの板碑の仏様がまつられています。

レンゲの花のうてなの上に柔和で素朴なお姿があり、その左右に「右木本道、左掘道」という文字が彫られています。



住職の話では、横町の大油屋清右エ門さん宅横にあったのを「もったいない」というので、ここに移されたのだとのことです。

大油屋さんの横角は、昔から「笹島口」といわれていますが、ここから熊野後道をずっと南の方へ入り木本と据との分岐(岐)点に建てられていた「道しるべ」の仏様だったろうと思われます。

それが大油屋さん横に鎮座されたということについては、何も伝えられていません。

市民との対話

深刻な地下水問題を、市民のみなさんと共に考えて対策を立てるため、10月中旬から下旬にかけて大野公民館・市民会館など市街地5か所で、節水対策会議が開かれました。

参加した市民は「地下水の現状説明、水源のかん養対策、一般生活用水・工場用水の節水対策、などの説明に真剣に耳を傾けていました。

意見交換では、出席者から「地下水の状況はよくわかったが、この冬の井戸枯

地下水対策会議

「融雪ストップ運動進めよう」

井戸枯れ防止の大きなポイント



地下水問題を熱心に討議する市民（春日児童館で）

れはどうして防ぐのか」「融雪は何年がまんすればよいのか」などの切実な質問が出されました。

これに対して市長は「この冬は市民みんな第一に屋根の融雪を全面的にスト

ップさせる。第二に公共性をもっている道路融雪水は3分の1に減らすこと。第三に各織物会社には出来るだけ早く、水の循環装置を設置してもらうこと、この3点を重点にして1日の水の使用量を10万ℓに抑え、井戸枯れを防ぐのではないですか。屋根の融雪は、10万ℓの範囲に余裕が出来るときまで、我慢願わなければなりません」と説明しました。

また、対策面では出席者の各層から、「融雪水を使わない運動、が徹底するよう監視人を置くべきだ」「再利用した水を地下へ還元出来ないのか」「川の水は工場の温度調節に使えないのか」などの積極的な意見や質問が多く出されました。

最後には「節水対策としてはこの会議は非常に重要です。しかし出席した者の数が限られていますので、これからも区単位ぐらいい対策会議を開く必要があると思います。そして、この冬は監視員を各区に置いて節水を実行しようではないですか」「もっと節水ムードを高めなければだめだ」など節水運動展開が力強く叫ばれました。

富田酪農団地が完成

北海道から乳牛60頭着く

8月から下麻生島で工事が進められていました富田酪農団地が、10月20日に完成しました。

建設費は1億100万円、敷地面積は約1万平方メートルです。牛舎は3棟で赤い屋根にグリーンの外装、青いサイロがよく調和しています。

富田酪農生産組合

(杉原俊雄組合長)では、本格的な酪農経営を目指して、10月中旬に北海道から乳牛60頭を購入しました。

これまでに飼っている48頭と合わせて108頭で経営することになり、1頭当たり年間5,000ℓ、合計約50万ℓの牛乳を生産する計画です。



「モー着いたよ。あれがお前の新居だ」

この施設の特徴としては、し尿処理に新しい方法を取り入れ、フンだけを固めてたい肥に出来る固液分離機を備えています。これでフンは1か月で固まり、有機肥料として取り扱いやすいものとなり、牛乳生産と合わせて大いに期待されています。

今月の納税

保 険 税 3期
29日までに納めて下さい

水田は生まれ変わる

四千ヘクタールを整備
市費投入は八億四千万円

農
村
部
で
は
土
地
基
盤
整
備
事
業
が
い
ま
た
け
な
わ
(
田
野
地
係
で
)

農村部では土地基盤整備事業がいたけなわで、昔ながらの形の悪い小さな田が30㍍区画の美しい田に次から次へと生まれ変わっています。

整備された田には、田植え機が入り、収穫期にはコンバインが躍動しています。また、田の周囲には幅広い農道が縦横に走り、用・排水路も整えられました。

この土地基盤整備事業が大野市で始ま

ったのは、昭和27年の右近次郎区からで、以来約30年間の計画で、市内の総耕作面積4,632ヘクタールの89%に当たる4,118ヘクタールを整備することになっており農業近代化には欠くことの出来ない事業です。

現在までに2,399ヘクタールが整備されました。ことしも上庄第一・第二、下庄東部、富田の4事業が県営で、佐開、上黒谷、下丁、阪谷、鍛掛、阿難祖の6事業が団体営で進められています。

事業費は、昭和39年以降現在計画中のものも合わせて123億1,267万円で、これを個人・国・県・市の4者が負担します。

事業費の市の負担は県営が5%、団体営が10%になっていますので、総額で8億4,252万円となり、昭和42年から昭和

49年までの8年間に9,609万円支出しました。

この事業は本年度以降最盛期に入り、市の負担する金額は、昭和50年度5,191万円、51年度6,980万円、52年度8,915万円、53年度1億46万円、54年度1億756万円、55年度9,463万円となり、昭和62年度までに7億数千万円を負担しなければなりません。

財政硬直化が進む中でこの大事業を遂行してゆくことは財政上からも苦しいことですが、農業百年の大計のために、また田園都市大野市の将来のために、ぜひともやり遂げなければならない大切な事業です。

人 事 異 動

10月1日付け。係長級以上()内旧任

【市長部局】▶税務課長中村為(都市計画課長)▶都市計画課長石塚一男(林務課長)▶福祉事務所長笠松常和(社会教育課長)▶林務課長金巻啓一(土木課長補佐)▶税務課長補佐熊野昭治(都市計画課長補佐)▶土木課長補佐千田巧(同課補修係長)▶土木課長補佐高岡俊二郎(同課工務第二係長)▶土木課長補佐大倉博明(企画財政課管財係長)▶農務課長補佐経岩二郎平(同課土地改良係長)▶都市計画課長補佐桜井清臣(土木課長補佐)▶保険衛生課係長柴田正(福祉事務所児童係長)▶企画財政課管財係長土蔵是武(庶務課)▶市民課戸籍住民記録係長川端謹吾(農務課主査)福祉事務所児童係長伊藤敬一(同所)▶土木課工務第二係長谷口俊英(都市計画課)▶農務課主査加藤健一(土木課)▶福祉事務所主査辻必勇(同所)▶商工観光課主査松田五十三(同課)【議会事務局】▶議会事務局長羽生忠夫(税務課長)【教育委員会】▶社会教育課長花山長右エ門(税務課長補佐)▶体育課長深美不可止(同課主幹)【監査委員事務局】▶監査委員事務局長松本時哉(保険衛生課長補佐)庶務課付▶中村年松(議会事務局長)▶松本才市(監査委員事務局長)▶酒井新左エ門(福祉事務所長)▶松田嘉三(市民課戸籍住民記録係長)▶鶴林とし(学校教育課係長)

市内バス、1日から運行
白山線も朝夕の2往復

国鉄バスの大野市内線と、市営バスの白山線が11月1日から運転を始めました

大野市内線は、京福大野一六間―国鉄越前大野―東中―市民会館前―中挟―陽明中学校前―合同庁舎前の折り返しで、午前8時から午後6時59分までの間に、7往復します。

運賃は40～90円です。

白山線大野三番―鳩ヶ湯間の市営バスは

1日2往復で、降雪期の12・1・2・3月は運休します。

ダイヤは大野三番 午前7時発―鳩ヶ湯

午前7時50分着、鳩ヶ湯午前8時発―大野三番午前8時50分着と、大野三番午後5時15分発―鳩ヶ湯午後6時5分着、鳩ヶ湯午後6時15分発―大野三番午後7時5分着です。

しかし、冬ダイヤ(10・11月)は午後の1往復が大野三番午後4時40分発―鳩ヶ湯午後5時30分着、鳩ヶ湯午後5時40分発―大野三番午後6時30分着です。

公改
選
法
正公職の人、同候補者の
花輪や寄付はいけない

金のかからない選挙を目指して、公職選挙法が大幅に改正され、10月14日から実施されています。

市民生活に特に関係のある改正点は、国会議員、県・市議会議員、知事、市町村長など公職の候補者及び公職にある人は、自分の選挙区で花輪・供花・香典・祝儀・寄付などの行為を親族以外には一切してはいけないことになりました。

これを機に「求めてはいけません。受

けとってはいけません」を市民みんなの合言葉にして、ふだんからきれいな選挙実現に心掛けましょう。



◆老人医療には被保険者証を必ず持参

老人医療費受給者証をお持ちの方が、医師の診療を受けるときには、老人医療費受給者証といっしょに被保険者証、または組合員証を必ず窓口に出して下さい。両方の証書の提出がないと、診療事務に支障がありますので、お忘れなく。

◆女子青年のつどいは奥越青少年の森で

女子青年のつどいが次のとおり行われます。ご参加下さい。

〈期 日〉11月15・16日(15日午後7時～16日午後3時)

〈場 所〉奥越青少年の森

〈テーマ〉女性の生き方を考える

〈内 容〉映画、話し合い、講演

〈会 費〉 700円

〈申し込み〉11月10日までに氏名・住所を市教育委員会社会教育課へ

◆荒島登山に参加を

荒島岳への市民登山を行います。

〈日 時〉11月9日(日)午前7時30分

国鉄大野駅前集合。雨天中止

〈申し込み〉11月8日までに市体育課へ

〈携行品〉会費 500円、雨具、弁当

◆バドミントン大会初心者歓迎

市民バドミントン大会を、11月16日(日)午前9時から、大野高等学校体育館で行います。試合はダブルスで初心者を歓迎します。希望者は14日までにベアーで市体育課へ申し込んで下さい。

◆し尿くみ取りは早めに

毎年11月下旬から12月いっぱい、し尿のくみ取りがこみますので、早めに業者へ発注して下さい。

秋の火災予防運動

11月26日～12月2日

◆駅伝競走は9日

第12回奥越駅伝競走大会が、11月9日(日)午前9時30分から行われます。

コースは市役所一鍛掛一上庄農協一佐開一勝原発電所一森本一上野一森目一南新在家一市民会館の42.5kmです。

ご声援のほどを。

◆労働保険に必ず加入を

労働者5人未満の事業所にも、4月1日から労働保険(労災・雇用)が強制適用されることになりましたが、まだ加入されていない事業所があります。

1人でも労働者を雇っている事業所で未加入の事業主の方は、公共職業安定所または労働基準監督署で早く手続きをして下さい。

労働保険に加入することにより、労働者の業務上の災害補償、および失業給付が確保されることになります。

◆大野町絵図の予約受け付け中

郷土史研究グループ「史の会」ではこの程、昨年歴史館で展示されていた享保天保、明治時代の絵地図(坂田玉子さん製作)を印刷し、11月15日まで予約受け付け中です。ご希望の方は月美町14～6坪内美子さん、または本町8-14坂田玉子さんへご連絡下さい。価格は1セット1,900円です。



いま筆者の手元に武田松次郎氏編「上黒谷史料」一冊が知人の厚意によって届けられた。昭和三十六年二月一日

発行とある。氏はいま病床にふしておられるが、長く教職に在って多大の功績を残された方である。▼上黒谷史料は、氏が生まれ故郷の歴史を丹念に調べあげてしかも、古文書等の資料を豊富に添えて見事に上黒谷を浮き彫りにした郷土史である。その詳細を述べる紙数はないが、「黒谷の観音様」つまり国生山仏性寺について調べる必要から、たいへん参考になったことを深謝したい。▼「左記の物件東京帝室博物館二御寄贈相成御厚意致深謝候 永く保存本館ノ資料ニ可供候也」として、黒谷経塚出土品十七点が記載された大正九年七月三日付の帝室博物館総長医学博士・文学博士森林太郎の書状が仏性寺に残されている。森林太郎とはいうまでもなく、有名な文豪森鷗外である。経塚とは納経した塚のことで、その跡は市の文化財に指定されている。今度市教委では秋季特別展として、大野盆地の埋蔵物文化財展を企画しているが、この黒谷経塚の経筒、和鏡などの出土品を現在の東京国立博物館の許可を得て、拝借することが出来たのは何よりの幸いである。▼出土した経筒の年号からして、今から約八百年前の保元年間であることが推定されるが、当時は平家納経が盛んに行われた時で、いろいろの推測や往時のロマンを描く中に、歴史の流れと古里の栄枯に連なるものを感じるとすれば、文化の日を迎える意義も深からうと思う。